深遊（しんゆう） 探訪（たんぼう）

この国は広くはない。
でも、この国は広い。そして深い。

四季、二十四節気をまたぐ、
多彩で気まぐれな自然の気質。

そこに、その土地土地に生きる人々の
表情や知恵や文化が滔々と息づいている。

この国は、分かり易くはない。
だからこそ「その奥、にある何か」への興味は尽きない。

時も季節も常に変化する。
ひとやものやことが次々と生まれ、
その役割を果たし、そして淡々と消えていく。

この国にはその連なりを
「うつろい」という概念で受け容れ、
千載一遇のこと、奥深きこととしてきた
類まれな感覚がある。

深く深く、その季節と場所を訪れ、
そこで出会う時どきのうつろいを、愛でる。

それこそが、この国、殊に東の日本を旅する
究極の醍醐味ではなかろうかと思う。

私たちＪＲ東日本は、
そう思う人の感性に真っ向から応え、
その人の人生の今までにない
体験と発見をもたらす旅をつくりたい。

「まだ、知らないことがあった、という幸福。」を、
実感する道程へ。

日本の奥の深さと出会い、
時どきのうつろいを愛でる。
人生の今までにない体験と発見を、
鉄道の旅で。

かつてない感動に出会う。
いま、「TRAIN SUITE 四季島」
ならではの旅へ。

日本には、色鮮やかに移り変わる四季がある。
その中で育まれた文化や芸術、風習。
そして、長い歳月をかけて研ぎ澄ませてきた、人々の繊細な感性。
時間と空間の移り変わりを楽しむ
「TRAIN SUITE 四季島」での上質な体験は、
日本のクルーズトレインでしか出会うことのできない
この四季がもたらす恩恵を、享受し尽くすことに他ならない。

「今までの人生で、最高の体験だった」
乗る人の記憶に、いつまでも残り続ける旅をめざして。
黄金色に輝く列車が、静かに走り出す。

PROLOGUE SHIKI-SHIMA

旅の始まりも上質に、「プロローグ四季島」

旅の起点となる上野駅に、「TRAIN SUITE 四季島」の旅にご出発いただくお客さま専用のラウンジ「プロローグ四季島」をご用意しております。洗練されたインテリアと、温かみのある照明デザイン。これから始まる感動体験を予感させる、深い落ち着きに満ちています。また、「TRAIN SUITE 四季島」へは目の前に設けた専用の「新たな旅立ちの13.5番線ホーム」からご乗車いただきます。

Welcome to TRAIN SUITE SHIKI-SHIMA

おもてなしを極めた、
豊かで上質な旅時間へ。

四季島スイート（メゾネットタイプ）

SHIKI-SHIMA SUITE ROOM
“MAISONETTE TYPE”

四季島スイート（メゾネットタイプ）

和室でくつろぎ、格別の眺めを楽しむ。
夜は階下で、深い落ち着きにつつまれる。

四季島スイートは、見晴らしのいい２階と、落ち着いた空間が安らぎをもたらす１階の、２つのフロアで構成されています。掘りごたつ風のテーブルがある和の空間で、刻々とうつろう風景を眺める体験は、まさにここでしか味わえない非日常。夜は特製の檜風呂で、リラックスした時間をお過ごしください。

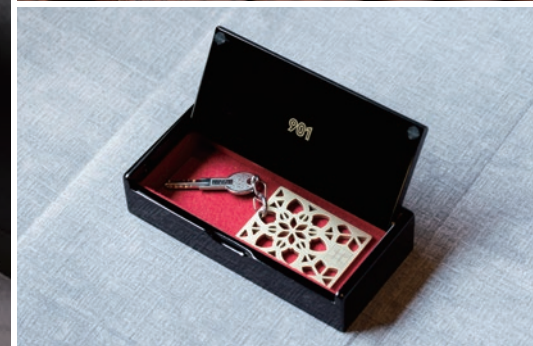
DELUXE SUITE ROOM
"FLAT TYPE"

デラックススイート（フラットタイプ）

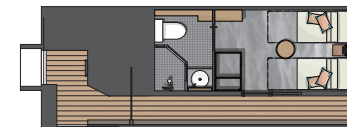
和の意匠と素材が織りなすモダンな空間が、風雅な時間を演出する。

空間の贅沢さと上質さをテーマとしたデラックススイート。日本古来の柄や木を使いながら、和紙、漆、石などさまざまな素材を組み合わせ、クラシカルなだけではない、モダンで洗練された雰囲気を演出しています。「走るアート」とも呼べる空間が生み出す、特別な旅情をお楽しみください。

デラックススイート（フラットタイプ）

SUITE ROOM

スイート

**日本の美意識を随所に盛り込みながら、
洗練さとのびやかさをまとった空間へ。**

時間と空間の移り変わりを楽しむための舞台である「TRAIN SUITE 四季島」の客室は、全室がスイートルーム以上。伝統的な和の美意識のエッセンスをとりいれつつ、同時に未来へと向かう意志を感じさせるデザインです。季節や時のうつろいを体感できる親密感に満ちた空間で、忘れられない時間が過ぎていきます。

スイート

DINING しきしま

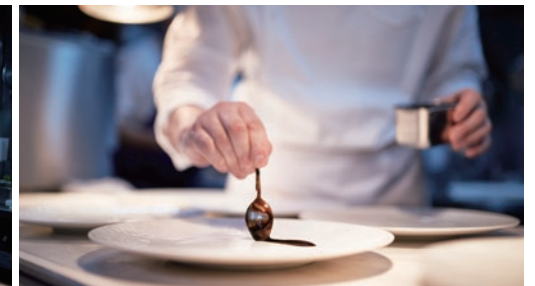
中村 勝宏
Katsuhiro Nakamura
総監修

岩崎 均
Hitoshi Iwasaki
監修

「TRAIN SUITE 四季島」でご提供するお食事は、日本人として初めてフランスでミシュラン一つ星を獲得し、2008年北海道洞爺湖サミットでは総料理長を務め、2016年にはフランス共和国農事功労章の最高位「コマンドゥール」を受章した、JR東日本グループ「日本ホテル株式会社」統括名誉総料理長・中村勝宏が総監修をいたします。また、「TRAIN SUITE 四季島」の初代総料理長を務めた岩崎均がその経験を活かし、監修としてサポートを行います。

佐藤 滋
Shigeru Sato
総料理長

総料理長には、歴史ある「東京ステーションホテル」副総料理長を務め、2017年に世界の料理人がフランスで腕を競う「第 67 回プロスペール・モンタニェ国際料理コンクール」で準優勝を果たした佐藤滋が就任し、車内でその腕を振るいます。

旬の素材をあじわう、その土地だけの出会い。

食事

**東日本各地の旬の滋味をとりいれた、
心づくしの料理がテーブルを彩る。**

その土地ならではの料理や食材との出会いは、旅の感動をより深めてくれるもの。「TRAIN SUITE 四季島」では、行く先々で、時には地元の料理人が車内に乗り込み、こだわりの料理を提供するなど、キッチンクルーと地域を代表する料理人の力を結集し、地域とのつながりや特別感を随所に演出した料理をお届けいたします。

LOUNGE こもれび / VIEW TERRACE きざし・いぶき

ラウンジ / 展望車

流れゆく自然の風景を、臨場感たっぷりに楽しむ。

雄大な自然を背景に、開放感と高揚感あふれる空間をデザイン。

未来へ進む意志を、光のかけらのような窓で表現した開放的な展望車。空に向かって枝を伸ばす樹木をイメージさせる、洗練されたラウンジ。車両ごとの快適さを象徴する内部形状が細部にわたるインテリアにも表され、旅の高揚感や非日常の時間をいっそう盛り上げます。

TRAIN CREW

「TRAIN SUITE 四季島」のおもてなしを体現する、唯一無二の存在。

「TRAIN SUITE 四季島」の上質な空間の中で、安らぎを感じながらおくつろぎいただくために。

ダイニングでの料理のサービス、ベッドメイキングなどのお部屋の設え、さらには、立ち寄り先での観光アテンドまで承るのがトレインクルーです。旅の始まりから終わりまで、お客さまお一人おひとりの気持ちに寄り添ったオーダーメイドのサービスを提供いたします。日本が誇るおもてなしを体現する、洗練されたホスピタリティをご堪能ください。

トレインクルー

滝沢直己
Naoki Takizawa

ユニフォームデザイン / NAOKI TAKIZAWA DESIGN INC. 代表

1960年東京生まれ。ファッションデザイナー。「ISSEY MIYAKE」のクリエイティブディレクター（メンズ 1993 - 2000年、レディース 2000 - 2007年）を経て、2007年に独立。2010年から上皇后陛下の衣装デザインを担当。2011年よりユニクロのデザインディレクターに就任し、2014年からはスペシャルプロジェクトのデザインディレクターとして活動している。2007年フランス芸術文化シュバリエ勲章受章。2009年東京大学総合研究博物館 / インターメディアテク寄附研究部門特任教授に就任（～2013年）。

EXTERIOR DESIGN

車両デザイン

奥山清行

Kiyoyuki Ken Okuyama

デザインプロデュースおよび車両デザイン / KEN OKUYAMA DESIGN 代表

1959年山形市生まれ。ゼネラルモーターズ社（米）チーフデザイナー、ポルシェ社（独）シニアデザイナー、ピニンファリーナ社（伊）デザインディレクターなどを経て、2007年 KEN OKUYAMA DESIGN を設立。山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティングのほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。著作多数。講演も行う。

いくつもの窓形状で構成されたユニークな外観が、この旅のさまざまな体験を予感させる。

シャンパンゴールドの外装に、4 面ガラス張りの先頭車両。この旅でしか味わえないエクスペリエンスを盛り込みながら開発された特注車両です。「美しい日本」、「豊かな時間と空間」、そして「日本の文化」を楽しむこの列車は、さりげなく深い知の感動を与える舞台として、世界最高クラスのクルーズトレインとなります。

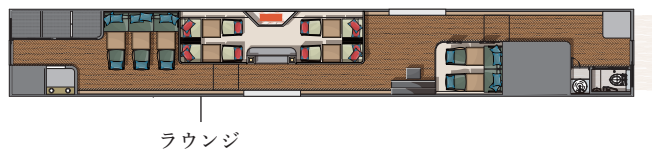
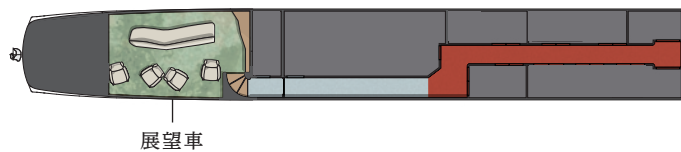
展望車

スイート

ラウンジ

ダイニング

デラックススイート
（フラットタイプ）

四季島スイート
（メゾネットタイプ）

日本の奥の深さを感じさせる東日本各地の職人の手仕事による伝統の逸品が、
旅の舞台となる客室や車内を彩ります。

展望車
-VIEW TERRACE きざし-
（1号車）

スイート
（2号車）

スイート
（3号車）

スイート
（4号車）

ラウンジ
-LOUNGE こもれび-
（5号車）

ダイニング
-DINING しきしま-
（6号車）

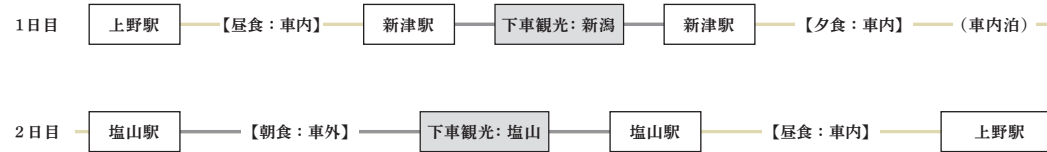
四季島スイート/
デラックススイート
（7号車）

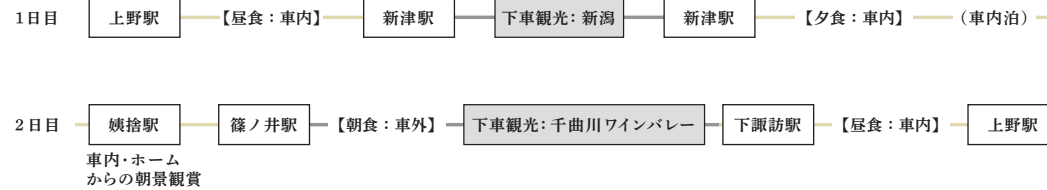
スイート
（8号車）

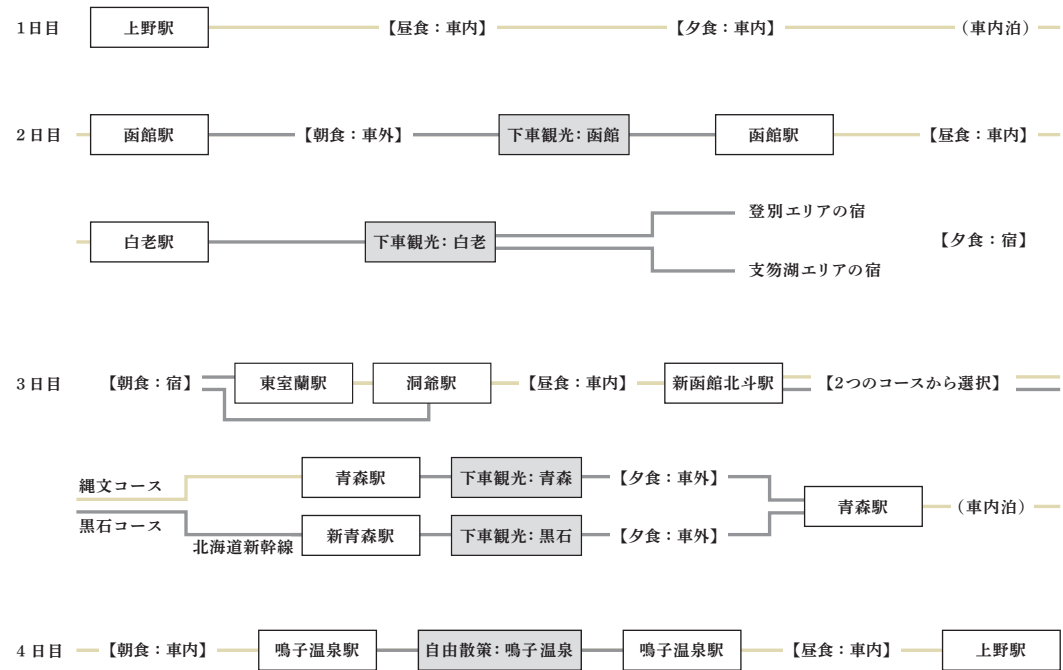
スイート
（9号車）

展望車
-VIEW TERRACE いぶき-
（10号車）

春～秋（4・5・10・11月出発）
1泊2日コース（山梨）

みなとまちが育んだ豪商の粋と、
豊かな里山の恵みを味わう旅。

春～秋（6～9月出発）
1泊2日コース（長野）

みなとまちが育んだ豪商の粋と、
豊かな里山の恵みを味わう旅。

春～秋（4～11月出発）
3泊4日コース

**大自然の織りなす風景と、
受け継がれてきた悠久の文化にふれる旅。**

TRAIN SUITE 四季島
列車、バス等

近代新潟を代表する豪商の迎賓館

旧齋藤家別邸

［1泊2日 1日目 ＊4～9月出発］

旧齋藤家別邸は、豪商・四代齋藤喜十郎によって1918年～1920年にかけて造られた敷地面積約1,300坪を誇る広大な別荘。近代和風建築の秀作といわれる開放的な建物は、大正時代における港町・商都新潟の繁栄ぶりを物語る文化遺産として知られる。2015年に国の名勝に指定された庭園は砂丘地形を生かした回遊式で、高低差のある斜面を利用して水の流れや滝を設け、深山幽谷の趣を造り出している。各地から運ばれた名石や巨石が配置されるとともに、松林の随所にモミジなどの植栽もあり、四季を通じて訪れる人を魅了する。

善光寺平を一望する圧巻の眺め

姨捨

［1泊2日 2日目 ＊6～9月出発］

姨捨山伝説の里としても知られる姨捨は、棚田と千曲川に沿って広がる善光寺平の眺望が「日本三大車窓」のひとつとして有名。特に棚田は、全国にある棚田の中で初めて国の名勝に指定された。5月、6月になると区切られた水面に月影が映り込み、そのさまは「田毎の月」と呼ばれる。「TRAIN SUITE 四季島」は、早朝に姨捨駅に到着。車窓、または駅のホームから、朝の風景を観賞する。季節や時間で姿を変えるその眺めは、古き良き日本の原風景を想わせ、素朴な感動を与えてくれるに違いない。

花街の芸と粋を堪能する

新潟古町芸妓

［1泊2日 1日目 ＊10・11月出発］

京都の祇園、東京の新橋と並び称されてきた花街、新潟古町。新潟古町芸妓は、港町として栄えた新潟を代表する文化のひとつとして約200年の伝統を誇る。江戸時代の新潟は北前船の拠点として多くの人々が交流し、にぎわっていた。そこにいつしか花街が生まれ、訪れる人々を粋な芸でもてなしたのが新潟古町芸妓だった。風情溢れる料亭が軒をつらね、日本有数の米や地酒、四季折々の食材を使った料理が振る舞われる古町の花街は、新潟を代表する伝統文化であり、芸妓たちはその象徴といえる。

世界が注目する山梨のワイン

日本のワイン造り発祥の地・山梨

［1泊2日 2日目 ＊4・5・10・11月出発］

水はけ、日当たり、風通しがいずれも良い最適な地形と気候を活かし、甲府盆地では古くからぶどうが栽培されてきた。ワインづくりの始まりは明治。今では新旧80余のワイナリーが山梨県内に集まっている。2010年、日本固有の品種「甲州」種が、ワイン醸造のぶどう品種としてパリのOIV（国際ぶどう・ワイン機構）に登録され、甲州ワインはEU各国へも輸出されている。この旅では勝沼のワイナリー「中央葡萄酒」「勝沼醸造」「丸藤葡萄酒」のいずれかを訪れ、「日本ワイン」を生み出してきた歴史や「甲州」というテロワールにこだわる作り手の誇りに触れていただきます。

繊細な建築意匠から往時の栄華を知る

燕喜館（えんきかん）

［1泊2日 1日目 ＊10・11月出発］

明治から昭和にかけて活躍した豪商、齋藤喜十郎の邸宅の一部を、新潟市の白山公園内に移築して再建。随所に銘木が使用され、座敷の欄間や襖絵なども数寄屋風の粋が感じられ、近代和風建築の特徴が見られる。名称の由来は、中国・唐の時代に活躍した思想家「韓愈（かんゆ）」によって編纂された「燕喜亭記」の「宴を催し、楽しみ喜ぶ」の一文を喜十郎が好み、本人自ら命名したと伝えられている。明治建築の意匠を活かした落ち着いた風情と文化のかおり漂う伝統的建築物として、2000年に国の登録文化財に指定された。

新進気鋭のワイナリーが集う

千曲川ワインバレー

［1泊2日 2日目 ＊6～9月出発］

千曲川（信濃川）の流域に広がる、千曲川ワインバレー。気候と土壌がワイン用ぶどうの栽培に適しており、メルロー、シャルドネなど欧州系の品種が多く栽培されている。近年は個人のワイナリーも増え、中堅のワイナリーでは新たなワイナリーを誘致する活動も行っている。また町がワイン用ぶどうの農地を確保して新規参入を受け入れるなど、ワイン産業振興のために官民がともに積極的に取り組んでいる。「TRAIN SUITE 四季島」の旅では、マンズワイン小諸ワイナリー、ヴィラデストガーデンファームアンドワイナリーのいずれかを訪れる。

明治のハイカラ文化を感じる

函館

［3泊4日 2日目］

ペリー来航後の1854年、開国後初めての貿易港として発展した函館。「TRAIN SUITE 四季島」の旅では、バスと路面電車で市内を巡る。函館朝市では、特産品のイカをはじめ、カニやサケなど、新鮮な食材が一堂に集まる活気あふれる市場の雰囲気を満喫したい。また函館といえば、坂道が織りなす異国情緒あふれる街並みも魅力。函館山の麓に建ち並ぶ歴史的な建造物と海に向かって真っ直ぐに伸びる坂の存在が、まるで街全体が絵画のような印象的な風景を描き出している。

藩政時代の風情が今に残る

中町こみせ通り

［3泊4日 3日目 黒石コース］

「日本の道百選」にも選ばれた中町通りの「こみせ」は、伝統的な建造物とアーケードが藩政時代からほぼそのままの形で残っており、全国的にも類例がない。「こみせ」とは、雪や雨をしのぐために作られたアーケード状の通路のことで、雪国特有のもの。夏は日差しを遮り、冬は吹雪や積雪から人を守り、軒を連ねていた旅篭や呉服屋、商家にとってはなくてはならない存在だった。国の重要文化財「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋、蔵などが並ぶ風景は、往時のにぎわいを彷彿とさせる。

アイヌ文化を白老から世界へ

ウポポイ（民族共生象徴空間）

［3泊4日 2日目］

北海道の南西、太平洋に面した白老町に2020年オープンした「ウポポイ（民族共生象徴空間）」は、存立の危機にあるアイヌ文化の復興・発展のための拠点となる場所。日本が将来へ向けて、先住民族の尊厳を尊重し、多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として整備された。ウポポイでは、「国立アイヌ民族博物館」の多彩な展示や「体験交流ホール」でのアイヌ古式舞踊などを通じて、アイヌの人々が育んできた豊かな文化に触れることができる。

ねぷた絵で世界に1つのうちわを

うちわ作り体験

［3泊4日 3日目 黒石コース］

青森県黒石市では、毎年7月下旬から8月上旬まで「黒石ねぷた祭り」が開催される。祭りなどで実際に使われた絵を使ったうちわ作りというユニークな体験ができる。参加者たちは、ねぷた絵の一部を使用し、色がにじまぬよう加工した後、竹骨に糊で丁寧に貼っていく。黒石ねぷたは弘前ねぷたと比べると小柄なこともあり、デザインが細かいため、うちわ作りの絵柄に向いている。完成したうちわを光にかざすと、本物のねぷたに負けないほどの美しさと迫力を見せてくれる。

日本最大級の縄文集落跡

三内丸山遺跡

［3泊4日 3日目 縄文コース］

三内丸山遺跡は、今から約5,900年前～4,200年前の縄文時代の集落跡。1992年からの発掘調査では竪穴建物跡や墓、捨て場などが見つかり、また膨大な量の縄文土器、土偶、ヒスイ製の玉などが出土している。この調査での数多くの発見が、従来の縄文文化のイメージを大きく変えるきっかけとなった。この旅では、出土品の整理作業現場や、約500個の土器が並ぶ一般収蔵庫の様子などを、専門ガイドの案内で見学する。広大な敷地の中で、悠久の時間に思いを馳せたい。

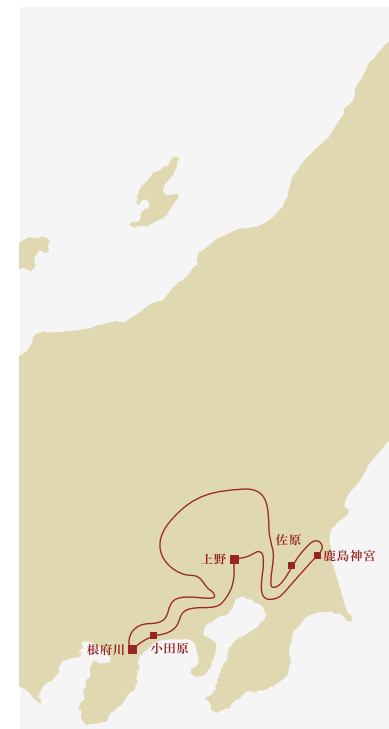
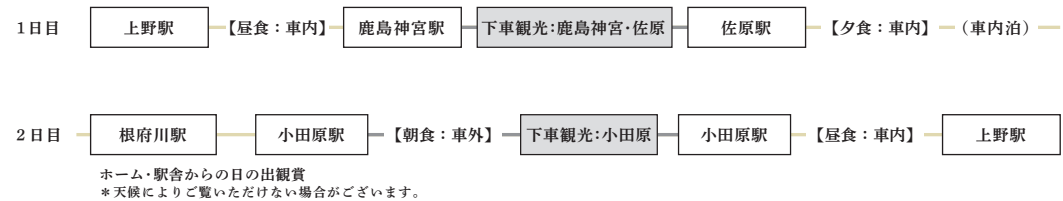
こけしの里の情緒溢れる温泉地

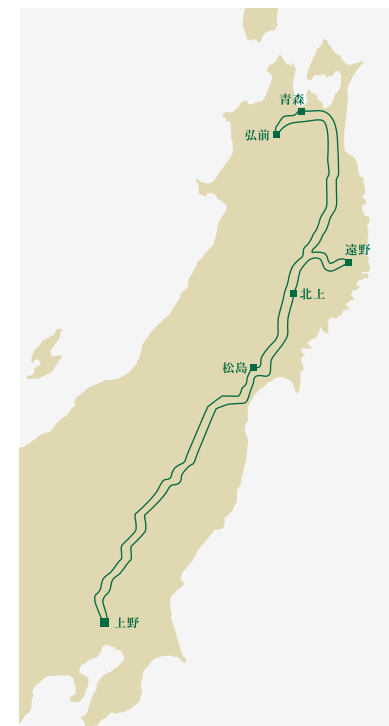
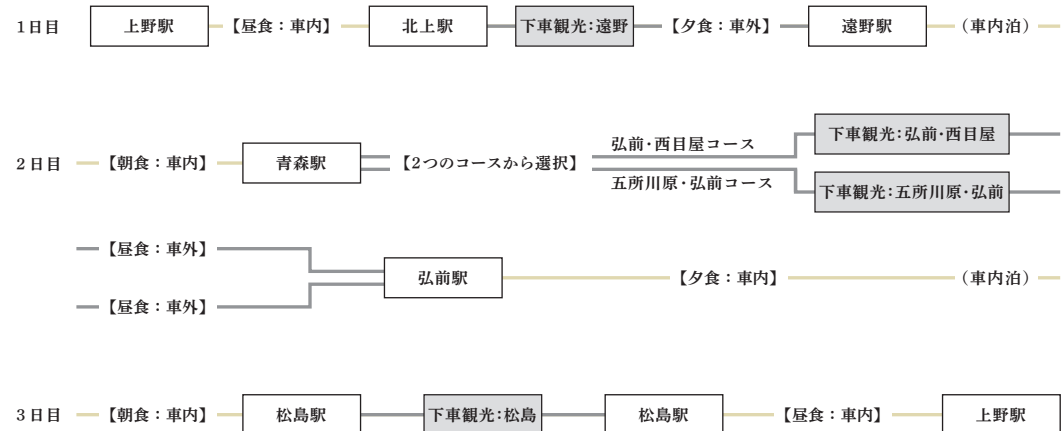
鳴子温泉郷

［3泊4日 4日目］

宮城県大崎市にある5つの温泉地を有する鳴子温泉郷。温泉の泉質は多彩で、種類の豊富さ・源泉数の多さは日本有数と言われる。歴史は古く、「続日本後記」に837年4月に潟山が大噴火をして温泉が湧き出したとあり、温泉宿の開湯は江戸時代中期頃と伝えられ、湯治場として多くの人々に親しまれてきた。江戸時代後期には木地師たちがろくろを使って作製した「鳴子こけし」をお土産や玩具として広め、その木地技術と共に発展してきた漆工芸品の「鳴子漆器」なども有名である。

冬（12～3月出発）
1泊2日コース

東国（とうごく）の冬日の光を受けて、聖なる社の森から太平洋をめぐる旅。

冬（12～3月出発）
2泊3日コース

東北の長い冬に息づいてきた、手仕事のぬくもりと幻想的な民話の世界への旅。

TRAIN SUITE 四季島

列車、バス等

壮大なる歴史と自然

鹿島神宮

［1泊2日 1日目］

日本建国・武道の神様である「武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）」を御祭神とする、神武天皇元年（紀元前660年）創建の由緒ある神社。現在の社殿は徳川二代将軍の秀忠により、また奥宮は徳川家康により奉納されたもので、いずれも重要文化財に指定されている。東京ドーム15個分に及ぶ境内地には、鬱蒼とした巨木が荘厳な雰囲気を醸し出す奥参道や、約1,300年の樹齢を数える御神木など、その歴史と由緒を感じさせる多くの見所が点在する。

二宮尊徳が残した日本の心

報徳二宮神社

［1泊2日 2日目］

1894年、二宮尊徳の教えを慕う6カ国（伊豆、三河、遠江、駿河、甲斐、相模）の報徳社の総意により、小田原が生誕地である二宮尊徳を御祭神として、小田原城二の丸小峰曲輪の一角に創建された神社。拝殿礎石には、天保の大飢饉の際に二宮尊徳が11万石の領内に住む民を救うために開いた、小田原城内の米蔵の礎石が使われている。同敷地内の「報徳会館」では木のぬくもりを感じる落ち着いた雰囲気の中で、食事をいただくことができる。

400余年を生きる町

佐原

［1泊2日 1日目］

かつて利根川水運で「江戸優り（えどまさり）」と言われる程に栄えた佐原の町。人々は江戸の文化を取り入れ、さらにそれを独自の文化に昇華。その面影を残す町並みが、小野川沿岸や香取街道に今も息づいている。1996年に関東で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれる。昔からの家業を継ぎ今も続いている商家が多く、「生きている町並み」として評される。また伊能忠敬が30年余りを過ごした母屋と店舗が、「伊能忠敬旧宅（国指定史跡）」として現存する。

アートの起源に還る

小田原文化財団 江之浦測候所
（えのうらそっこうじょ）

［1泊2日 2日目］

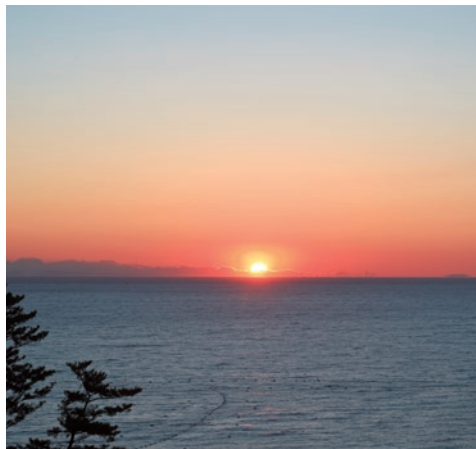
「アート」とは、各時代における「人間の意識の最先端」を表すもの。その新たな未来を拓く糸口として、世界的な現代美術作家・杉本博司により建てられた美術展示施設。ギャラリー棟、石舞台、光学硝子舞台、茶室、庭園などから構成される。建造物は各時代の日本の建築様式、及び工法の特徴を取り入れて再現され、日本建築史を通観するものとして機能する。それは現在では継承が困難になりつつある伝統工法を、将来に伝える使命も果たしている。

日出ずる処の駅と海

根府川駅（ねぶかわえき）の日の出

［1泊2日 2日目］

相模湾を見下ろす丘の上にある、東海道本線・根府川駅。駅前やホームから見る日の出の眺望は、まさに絶景。冬は太陽が駅の正面あたりに昇り、時代を感じさせる駅舎を鮮やかに照らす。秒単位で空の色が移り変わる様は、誰もが目を奪われること間違いなし。刻々と色を変える空と海、やがて水平線の彼方から昇る朝日を眺める癒しの時間を楽しみたい。

＊天候によりご覧いただけない場合がございます。

昔話の世界に誘われ

とおの物語の館
［2泊3日 1日目］

岩手県の内陸部にある遠野は、民俗学者柳田國男が著した「遠野物語」の舞台となった町で、カッパや座敷わらしの伝説が息づく「遠野民話」の里として知られる。「とおの物語の館」は、この地に伝わる民話を体験できる施設。造り酒屋の蔵を改築した「昔話蔵」では、座敷わらしや雪女などの話を、切り絵やイラスト、映像などを使って紹介している。また語り部による昔話や神楽をはじめ郷土芸能の鑑賞などができる劇場空間「遠野座」などもあり、日本の原風景に触れながら、心豊かな時間を過ごすことができる。

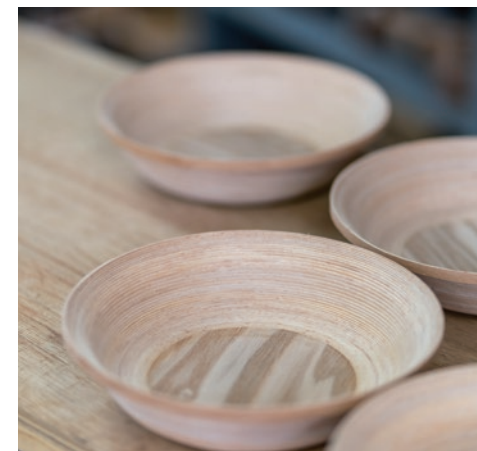
青森が誇る美技

BUNACO 西目屋工場
［2泊3日 2日目 弘前・西目屋コース］

世界最大規模のブナ原生林が分布する世界遺産「白神山地」をはじめ、広大なブナ林を有する青森県。「BUNACO（ブナコ）」はそのブナの木から生まれた工芸品で、世界の高級ホテルや有名セレクトショップで採用されるなど、国内外で高い評価を獲得し注目を集めている。地元の小学校旧校舎を活用した西目屋工場では、熟練の職人によるBUNACO作りの技術が間近で見られる工場見学や、世界にひとつだけのBUNACOの手作り体験が楽しめる。

太宰作品の頁を巡る

太宰治記念館「斜陽館」
［2泊3日 2日目 五所川原・弘前コース］

太宰治が生まれる2年前の1907年、父・津島源右衛門により建てられた豪邸。和洋折衷・入母屋造りの建物は、米蔵に至るまで「青森ヒバ」の木材が使用されており、どっしりとした重厚感が特徴となっている。国の重要文化財建造物に指定され、明治期の木造建築物としても貴重な一軒。蔵を利用した資料展示室には、太宰が生前着用していた二重廻しのマントや執筆用具、書簡などの他、初版本や外国語の翻訳本も展示されている。

りんごの聖地を味わう

河東地区りんご施設
［2泊3日 2日目 弘前・西目屋コース］

1995年に設立された、日本一の大型りんごセンター。3万4,500㎡の広大な敷地で、1日128t（6,400箱）の選果、箱詰め、出荷を可能にする。選果では、糖度・熟度・硬度・蜜の有無・内部の障害などを瞬時に判別する高性能光センサーにより、「つがる弘前りんご」のさらなる高品質化をめざす。施設内の見学も可能で、甘酸っぱい香りが漂うなか、1個ずつ真っ赤なりんごが流れていく様子を間近に見ることができる。

伝統の継承と創造を

弘前れんが倉庫美術館
［2泊3日 2日目 五所川原・弘前コース］

明治・大正期に建設され、近代産業遺産として弘前の風景を形作ってきた「吉野町煉瓦倉庫」を改修し、2020年に美術館として再生。展示作品は勿論のこと、建築家の田根剛が「記憶の継承」をコンセプトに手がけた美術館そのものも、鑑賞すべき作品のひとつである。幾何学模様デザインの温もりある手芸が特徴的な「津軽こぎん刺し」や大鰐町で木材工芸品を生産する「わにもっこ」の木工品作りなどの手作り体験を楽しめる。

伊達政宗の粋が集いし寺

瑞巌寺
［2泊3日 3日目］

正式名称は「松島青龍山瑞巌円福禅寺」。開創は828年の平安初期にまで遡る、奥州随一の古寺。現在の建物は、1609年に伊達政宗が名工130人を集め、5年の歳月をかけて完成させたもの。桃山時代の真髄である荘厳な風格を有し、唐戸や欄間、襖、床の間などの豪華な絵画は、日本の自然美を代表する「人工美の極致」と評される。現存する本堂・御成玄関、庫裡・回廊は国宝に、御成門・中門・太鼓塀は国の重要文化財に指定される。

詳しくは、「TRAIN SUITE 四季島」ホームページをご覧ください。

https://www.jreast.co.jp/shiki-shima

＊掲載の写真・イラストはすべてイメージです。
＊このパンフレットの情報は、2021年7月現在のものです。